

木田市長の

どろんどろんと
コミュニケーション



獣害と災害

Vol.104

市内どこへ行っても、よく言われるのは獣害被害のことです。「家のそばまでイノシシやサルが出没して怖い。」

「せっかく作った野菜や果物が全部食べられてしまう。」
「市長さん何とかして下さい。」
「ごもつともです。何とかしたいのですが、これがなかなか難題です。」

実は、私の家の周りも獣害被害の宝庫です。庭の花がシカに食べられてしまったり、サルが屋根の上を走り回る始末ですが、一番気にしていることがあります。それは裏山の竹藪が全滅しそうなことです。以前は、大変立派な大きくてやわらかい竹の子がたくさん採れたのですが、今や獣害で一本の竹の子も、私達

の口には入りません。全部動物達の胃袋におさまっているようです。

竹の子は全部食べられてしまつ上に、親竹は年をとって順次枯れていきます。だから竹藪全体が消滅してしまうことになりまふ。まるで人間社会の少子高齢化の典型みたいな話です。

そして、竹の子が食べられないことよりも、もつと深刻なことは、この大雨が降りやすくなつた気候の中で、藪が枯れてしまつて土砂崩れが起きないかという心配です。

私の家は、ちょうど谷筋に建つています。広島のと石流のようなことが起これば、家が押しつぶされてしまうのは目に見えています。ただ「離

れ」は尾根の延長線上に建っていますので、この離れは大丈夫なのではないかと、地形の観察の結果、考えています。降る雨が本当に激しくなってきた時は、とにかく離れに避難しよう和家人で話し合っています。

今後、災害が心配されるような時には、市から避難指示などの警報が出ることもあるでしょう。しかし、そのような時、自分の住んでいる場所の地形も考えて、自分達はどこへ逃げるのか、逃げずに留まつた方が良いのかということとを、普段から自分達で考えておく必要があります。

本当に危険な時に、誰も助けに来てくれないということ、はしばしば起ります。今後、鳥羽市では、地区を細かく分けて、土地の高低や地形に応じた避難情報が出せるように考えていきます。

私も個人的には、山にフェンスを張つて、獣害がやつてこないように、そして竹藪を守つて、土砂崩れが起きないように対策をとつていこうと考えています。



平成26年度交通安全ポスター

コンクール入賞者発表

市民課人権・生活係 ☎(25)1141

市が募集した交通安全ポスターの審査の結果、340点の応募作品の中から次の10人が入賞となりました。



鳥羽市長賞
鳥羽小6年 山口 太一さん



鳥羽市長賞
鳥羽東中1年 野呂浩太郎さん



鳥羽市交通安全全母の会長賞
鳥羽小4年 重見 航希さん



鳥羽市交通安全全母の会長賞
加茂中3年 藤原 華さん

小学生の部

鳥羽警察署長賞

小学生の部

安楽島小3年 中村 紗和さん

中学生の部

加茂中3年 濱口 真穂さん

鳥羽市自治会連合会会長賞

小学生の部

神島小1年 小久保妃彩さん

中学生の部

長岡中2年 松井 魁成さん

中学生の部

鳥羽地区交通安全全協会長賞

小学生の部

桃取小5年 刀根 麻湖さん

中学生の部

鳥羽東中2年 庄司 龍斗さん

【交通安全ポスター展を開催しています】

とき 10月5日(日)まで

ところ 鳥羽ショッピングプラザザハロー